



ありあけ

2022(令和4)年
5月1日(日)

1 か月を振り返って

校長 前嶋 正秀

早いもので、令和4年度がスタートしてからすでに1か月が経ちました。

私は日頃、生徒の皆さんの学びにむかう姿勢や、休み時間中の様子などを知るために、定期的に校内を巡回(巡回と言うよりウロウロ)しているのですが、この1か月間、私が授業中や朝の学習時間中などの生徒の皆さんの様子を見ていて、あるいは実際に教壇に立って授業をしていて、感じたことや気づいたことを思うままに記したいと思います。

新年度が始まった直後は、生徒の皆さんは大きな期待感を持つと同時に、どうしてもある種の緊張感や不安感を併せ持っているものですが、さすがにかえつ生、というべきか、新しいクラスメートと打ち解けるのにそれほど長い時間はかからなかったようです。中1から高3まで、当初はお互いが何となく抱いていたぎこちなさ(?)のようなものも、今ではすっかり影をひそめ、どの学年も和気あいあいと学級生活が始まったように感じています。これは、中学で言えばサイエンスの授業を利用してのクラスづくり、すなわち良好な関係性を築くためのグループワークをしたり、あるいは居心地の良いクラスを創るためのチームビルディングをしたり、ということも大いにあずかっているのではないでしょう。

もちろん、生活面はこれですべてが完璧、というわけではありません。例えば「休み時間をどう利用するのが効果的か」など、より学びを深めるのに、あるいはより良い関係性を構築するという観点で、クラスや学年に特化した課題はそれぞれあると思います。そのあたりも自分たちで考えながら解決策を見出していけるようになれば、それが理想的ですね。

学びの様子は、全体的にみれば非常に感心するほど前向きに取り組んでいます。特に低学年になればなるほど、本校がとても大切にしている「主体的に学ぶ」「自分から考える」という姿勢を体現できています。このことは、中学のサイエンスや高校のプロジェクトの授業にもっとも端的に現れていますが、教科の授業や専科(実技)の授業でも、生徒は積極的に、そして意欲的に、自ら考えることを楽しんでさえいるようにも見えます。しつこく言いますが、このことには本当に感心しています。もちろんこれには、授業を展開していく上での、教員サイドの工夫もあり、インプットの要素を取り入れつつも、タイムリーに自ら考えるための働きかけをしているからでもあるのですが、生徒の皆さんはまさに打てば響くように、ある時はデバイスを使いながら、またある時はグループで意見を戦わせながら、主体的に学んでいるように見受けられます。また高学年になればなるほど、知識量を確実に増やすということも大事にしながら、自らの進路にしっかり目を向け、それに伴って学習にもさらに真剣味が増してきたような気がします。そのような姿を目にしていると、自己実現ができることを願ってやみません。すべての生徒が学びを楽しむことを願い続けたいと思っています。

4月のご報告

本校ホームページ「最新情報」ページをご覧ください。

【中高サッカー部】活動報告・新1年生スケジュール

【調理部】調理活動を再開しました!

【高校新クラスの日常】第46号 新1Aにインタビューしたよ!

【中高】入学式 0408

【生徒会活動】明日からのオリエンテーションに向けて 他

*今後の予定については、急な変更の可能性もありますので、学校からのメール連絡等をよくご確認ください。

今回は6/1(水)発行予定です。(広報部)